

学びのあれこれ No. 127

地域を知る

—南コースその2—



④南谷端公園

—北区行政資料集（平成29年度版）より
面積：7139 m² 1949年6月21日開園

南谷端公園ができたのは、戦後です。どのようにして誕生したのでしょうか。

昭和22年（1947年）の地図を見てみました。

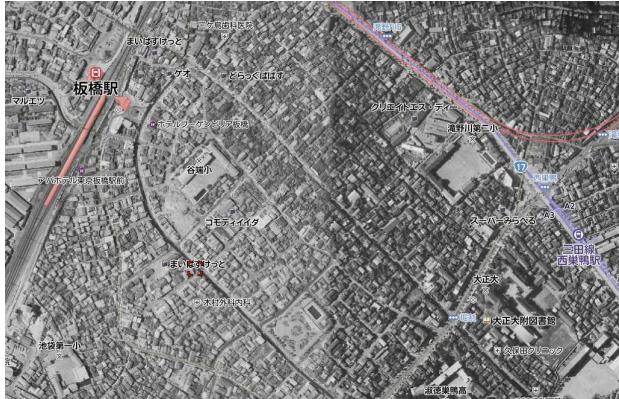


goo 地図/古地図/昭和22年（1947年）より作成

すると、滝二小の近辺は、千川上水を境にして焼け残っていますが、南東は焼け野原になっていることが分かりました。

南谷端公園のような比較的広い公園ができたのは、皮肉にも東京大空襲があったからでした。

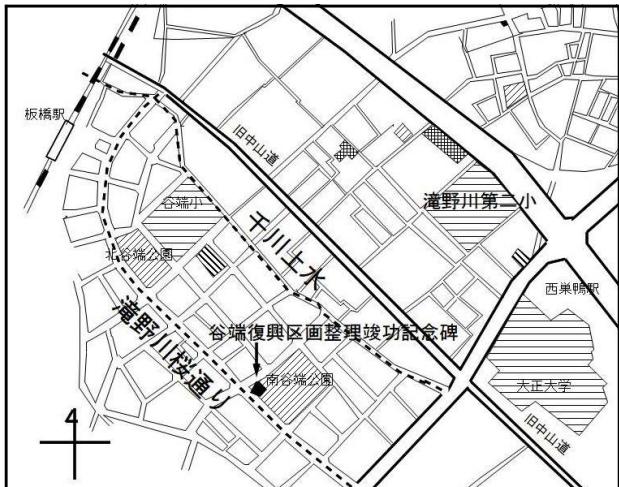
復興計画により、区画整理が行われた結果、現在の滝野川桜通りと南谷端公園ができたのです。



goo 地図/古地図/昭和38年（1963年）より作成

南谷端公園の一角には、大きな記念碑が立っています。そこには、「谷端復興区画整理竣工記念碑」と記されています。「復興」とは、東京大空襲からの復興を指します。上の昭和38年の地図には、大きくカーブする、滝野川桜通りがくっきりと分かります。

My HP アドレス



谷端復興区画整理竣工記念碑

⑤コモディイイダ

—滝野川市場通り商店街ホームページより

この商店街は国鉄赤羽線、板橋駅から歩いて約五分。飯田百貨店というスーパーを中心に小さな商店が密集している。

生鮮食料店、衣料品を中心にコーヒー、清涼飲料水など普通の三割から四割以上も安く買えると評判である。毎日、人の出盛る夕方になると、さらに露店商までたくさん出てきて、街全体が蜂の巣をつついたような騒ぎになる。

ウィキペディアより

株式会社コモディイイダは、東京都北区滝野川七丁目に本部を置き、関東地方で食品スーパーを展開している日本の企業。旧社名は、株式会社飯田百貨店。

コモディイイダは1都3県（東京、埼玉、千葉、茨城）に82店舗を展開しています。

滝野川店は1946年に飯田百貨店として生まれ、1948年に株式会社になってから1号店となりました。1997年に社名と店舗名を現在のコモディイイダに変更しました。滝野川店が本社です。

ちなみに、コモディ（commodity）というのは、商品、日用品という意味があります。

⑥北谷端公園

— 北区行政資料集（平成29年度版）より
面積：3180 m² 1943年3月27日開園

遊具が多くあり、子供たちがよく遊んでいます。公園の中心にある大きなコンクリートの遊具は改修を重ねて素晴らしいものになっています。

戦争中で開園したそうですが、その理由はいろいろ調べましたが、分かりませんでした。

⑦馬頭観音（滝野川6-62-11）

— 滝野川探検隊ホームページより
明治時代中山道の旅人の道中安全祈願と荷役に使われた、馬に感謝と供養を込め、建立されました。

滝二小のすぐ近くに江戸五街道の一つである中山道が通っているなんて大変素敵です。

このまま進めばいずれは京都に着くとなるとロマンが生まれます。

板橋は、中山道69次の起点である日本橋から一つ目の宿場町。馬頭観音があるのもうなずけます。

この辺りは、種屋街道と言って、野菜の種を売っているお店が並んでいたそうです。特に、有名だったのが、「榎本孫八」「越部半右衛門」「榎本重左衛門」の三家で、「滝野川三軒家」の由来となっています。この三軒は、現在は、すべて廃業しています。

「榎本孫八」家だけが、滝野川に残っています。（滝野川6-31-16）

この家は、中山道に面して明治43年（1910年）に建築されたものですが、種子屋を



廃業した後に、現在地まで家を動かしてきたそうです。



今昔マップ on the web (1896 ~ 1909年) より作成

⑧亀の子東子本店（滝野川6-14-8）



— 亀の子東子西尾商店ホームページより —

亀の子東子西尾商店は、明治40年、東京本郷真砂町で誕生しました。関東大震災の影響を免れた滝野川工場へと本社を移転して以来、現在の北区・滝野川にて操業してまいりました。戦火での消失を免れた社屋は西洋建築の姿を守り、昔ながらの愛好家の方はもちろん、近代建築の研究者やファンの方にも愛される観光スポットとなっています。

1Fに開設している直営店では、歴史を感じながら定番商品からグッズ・アクセサリーまで、さまざまなたわしを実際に手にとっていただくことが可能です。



1915年7月2日、西尾正左衛門が「亀の子東子」の特許を取りました。そこで、この日を「たわしの日」といいます。小さい亀に似ていることから名付けられた東子ですが、開発するのに8年かかったそうです。

終わりに

滝野川は歴史と文化があふれていることに改めて気付きました。もっと地域を調べれば、ますます面白い事実を発見できることでしょう。